

**再生稲で縞葉枯病と黄萎病が発生しています！
秋耕が遅れているほ場は、速やかに耕起をしましょう！**

10月の再生稲における縞葉枯病の発病株率は、6.4%(平年比 155.6%) と平年より高く多い状況でした（表1）。特に県南部では程度の高いほ場が多くみられました（図1）。8月下旬調査でも、県南部では縞葉枯病の要防除水準（黄熟期発病株率 10%）を超えるほ場が見られており、次年産での発生増加が懸念されます。

また、黄萎病の発生ほ場率は 5.0 %（平年比 49.2%）と県全体ではやや少ない状況でしたが、県北・県中部の一部に発生程度の高いほ場が見られました（表2、図2）。

縞葉枯病はヒメトビウンカが、黄萎病はツマグロヨコバイがそれぞれ媒介する病害です。再生稲がほ場に長く残ると、害虫の個体数の増加や発病株を害虫が吸汁して保毒虫率を高める恐れがあります。秋耕が遅れているほ場は速やかに耕起をしましょう。

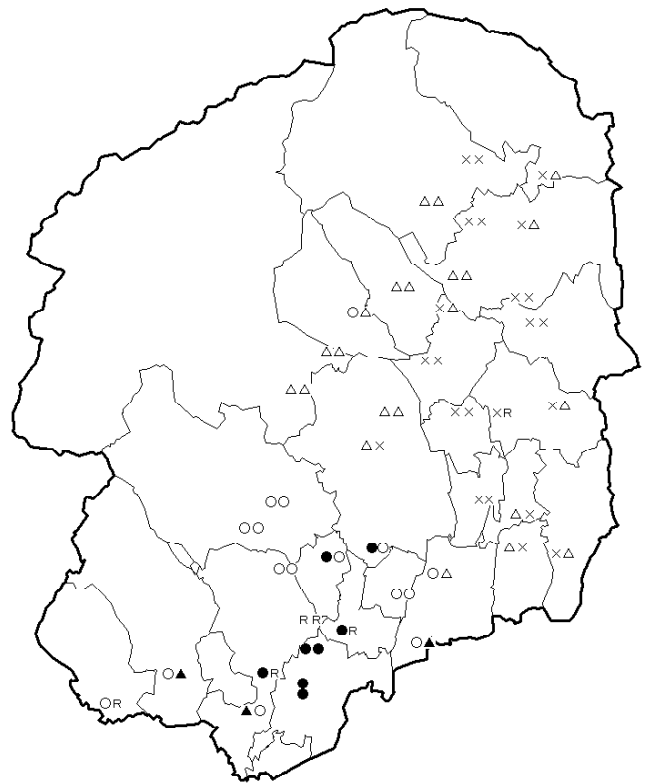
表1 イネ縞葉枯病発生株率（再生稲）

調査場所	縞葉枯病 発病株率 (%)
県全体発病株率(A)(%)	6.4
平年値(B)(%)	4.1
(A)/(B)×100	155.6
県北部発病株率(%)	0.1
県中部発病株率(%)	3.4
県南部発病株率(%)	20.2
概評	多

※県内 78 ほ場、300 株調査



写真上：ヒメトビウンカ(雌成虫)
写真下：縞葉枯病（再生稲）



国土地理院承継平14総研第149号

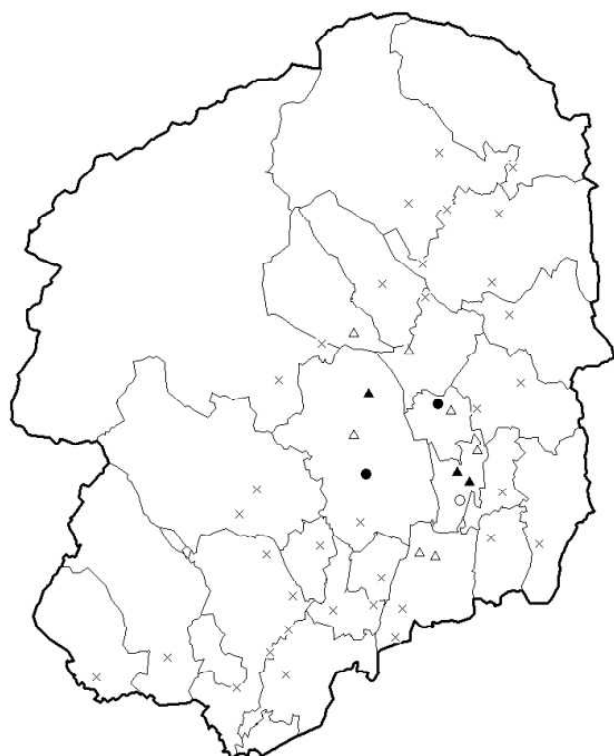
程度	無	散見	少	中・多・甚	
発生株率(%)	0	1未満	1~10	11~20	21以上
ラベル	×	△	○	▲	●

図1 イネ縞葉枯病の発生状況

表2 再生稲におけるイネ黄萎病の発生状況

調査場所	調査ほ場数	黄萎病発生ほ場数					黄萎病発生ほ場率(A)(%)	平年値(B)	(A)/(B) × 100	黄萎病発生程度	概評
		程度別発生ほ場数				合計					
		甚	多	中	少						
県全体合計・平均	2170	9	13	19	68	109	5.0	10.2	49.2	やや少	やや少
県北部合計・平均	776	1	2	0	19	22	2.8	10.4	27.4	やや少	
県中部合計・平均	890	8	11	19	49	87	9.8	13.0	75.4	平年並	
県南部合計・平均	504	0	0	0	0	0	0.0	3.0	0.0	少	

※車上からの見取り調査。



国土地理院承認平14総複第149号

程度	無	少	中	多	甚
発生株率(%)	0	1~5	6~10	11~30	31以上
記号	x	△	○	▲	●

図2 イネ黄萎病の発生状況

※程度は地域内で最も高いものを表す



写真上：ツマグロヨコバイ（雄成虫）

写真下：黄萎病（再生稲）

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。

また当センター携帯サイト（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）もご利用ください。

（TEL 028-626-3086）